



# 人と環境の三木北高新聞



## 正常性バイアスを一時解除せよ

2021年が始まりました。1月13日兵庫県に、緊急事態宣言(2月7日まで)が発出され、多難な門出になりました。緊急事態に直面した時、パニックにならず正常な精神状態を保つことはとても大切です。しかしこの正常であろうとする脳の働き「正常性バイアス(偏見)」には注意すべき点があります。人間は大災害などに直面したとき「まだ大丈夫だ」などと物事を正常の範囲だと認識し、逃げ遅れたり命を落としたりすることがあるのです。新型コロナに対しても「自分は感染しない。新型コロナはただの風邪だ。」などと考えようとする。つまり緊急事態には、正常性バイアスを一時解除する必要があります。では、どうしたら解除できるか。それは、視野を広げることです。自分が見ている、知っている情報だけでなく、世界の状況はどうか、他の人の意見はどうかなど多方面の情報を集め、多角的に物事を見ることです。そうすることで、今起きている非常事態がどんな状況かを正しく理解できます。そして、それを乗り切るために適切な判断をし、行動することができるのです。みなさんも、今一度自分の正常性バイアスを見直してください。



### FMみっきい「じんけん・こころの小窓」出演

2021年1月6日12:30放送のFMみっきい「じんけん・こころの小窓」に1年松川真子、有馬優斗さん、3年内藤綾香さんが出演しました。地域の方々の健康寿命延伸を目的に行っている「フレイル(虚弱)予防プロジェクト」について話しました。1月13(水)12:30、1月9日・16日(土)8:15に再放送がありました。学校HPからも聞くことができます。



### 志津川高校との交流会をサンテレビが取材に!

2020年12月15日本校生徒会と宮城県志津川高校生徒会がZoomを使った交流会を行いました。志津川高校との交流は2011年東日本大震災の年の12月に始まり、今年で10年目になります。佐野代行先生が発起人となり石田武史先生とともに生徒会、野球部、剣道部の生徒60名と志津川高校を訪れたのが最初です。その後、両校の野球部が交互に訪問し、野球を通しての交流を続けてきました。学校間の交流がこのような長く続いているのは志津川高校と本校だけだそうです。震災から10年になる今年、野球部だけでなく生徒会の交流も再開しようとWeb交流会を行いました。その様子を、サンテレビが取材に来てくださいました。3月の震災特別番組で放送される予定です。



### 乳幼児ふれあい体験

2020年10月15日、11月26日、12月3日の3回)3年「保育と環境」の時間に乳幼児ふれあい体験を行いました。4人の赤ちゃんに触れ合い、お母さんから育児体験を聞き、命の大切さを実感することができました。保育士を目指す生徒にも貴重な経験になりました。



### 激走! 三木市民駅伝競走大会

2021年1月9日第16回三木市民駅伝競走大会に本校から男子8、女子1チームが参加しました。男子は野球2、陸上1、野球陸上合同1、バレー2、バスケット2チームが参加し全20チーム中、野球部5位、陸上部6位、女子は全7チーム中野球陸上合同チーム7位でした。

### 音楽部中庭コンサート開催

2020年11月17日、12月22日、音楽部が中庭コンサートを開催し、1、2年生部員22名が、KANA-BOON「ないものねだり」などを披露しました。校舎の2~4階の窓から鑑賞している生徒も多く、中庭全体がこころよい音楽で満たされました。今後は月1回開催する予定です。



## 先生のリレー連載第22回

英語科 石田 沙耶香

### 「英語嫌いなあなたへ」

三木北高校には、英語が苦手だけれど、受験に必要なから勉強している、という生徒が多いと感じます。この文章は、嫌々英語を勉強している人に、もっと英語の根底の部分の必要性を知ってほしいと思い書きました。

日本では、多くの外国人が仕事をしていますので、将来皆さんと一緒に働く可能性があると思います。また、日本企業は海外に多くの拠点を持っているため、自分の意志とは関係なしに転勤などで海外に赴任することも考えられます。つまり、「自分は日本から出ないから英語はいらぬ。」という考えは時代遅れなのです。

世界中の学校で教えられている第一外国語のほとんどが英語です。だから、英語が母語でないにも関わらず、英語を使える人はかなり多いです。私がドイツに留学していた時にも、会話の輪の中に、ドイツ語が不得手な人がいれば英語を使用する、という文化がありました。英語が世界の多くの国々で共通理解されている言語であることを、私はこの留学を通して再確認しました。

日本では、英語を使えなくても生活に困ることはないでしょう。しかし、英語が使えたら将来の選択肢が増えます。本やインターネットなどから得る情報も、英語が分かるのと分からないのではその情報量に大きな差が出て来ます。英語が嫌いだけれど受験のために勉強している人、同じ勉強するのなら、将来このような社会に生きていかなければいけないということも頭の隅に置いて、少しでもモチベーションを上げてほしいと思います。今日本もdiversity(多様性)の社会です。きっと将来「高校生の時、もっとやっておけばよかった」と思う時があるでしょう。

でもやはり英語教師としては、外国語を学ぶことを楽しんでもらえるのが一番の願いです。音楽が好きな人は洋楽、映画が好きな人は吹き替えなしの映画、スポーツが好きな人はスポーツ観戦や記事など、受験のためだけではなく、まず自分の好きな分野で外国語に親しんでほしいと思います。また、外国語を勉強することは、異文化を知り、日本のことを再認識することにもつながります。そして何より、世界中の多くの人と自分の言葉でコミュニケーションを取ることができます。コロナ禍の今は海外と行き来することはできませんが、日本でもできるweb日本語ボランティアやALTの先生とおしゃべりをしたりして、人と人との交流を通して、外国語を学ぶこと、異文化を知ることの本当の楽しさをみんなに知ってほしいと思います。

## 受験の味方ユスネコ参上



### 第19回「混乱期の受験は3月に勝機あり」

世界で最も聡明にして優雅な猫族の一員である、私ユスネコが、勉強のこつを教えてあげるコーナー。

諸君は私が7月の第13号で「今年の入試は『さきがけ』(最初の推薦入試)と『しんがり』(3月入試)に勝機がある」と言ったのを覚えておるか。事実今年3名が推薦入試で国立大学に合格した。そして今は、感染拡大で2月の個別入試実施が危ぶまれているが、大学は年度内に合格者を出さねばならない。しかも昨年と比べ共通テストの志願者は約2万5千人減っており、倍率が低く合格しやすい状況にある。そうすると、3月まで定員が埋まらない大学が出てくるということだ。だから3月入試に勝機がある。最後までがんばった人が希望の大学に合格できるのだ。諸君、今年は特に、絶対に最後まであきらめな。あと2か月全力を尽くして勉強し、4年間のパラダイスを手に入れるのだ。心から応援しておるぞ。がんばれ! がんばれ!